

く、うかつ……「彼ら」の侵食が、
もう研究所全域にまで拡がっているなんて……!!

たった一人で乗り込んでくるとは
見上げたものだよ。

腑抜けた「組織」の犬にしては勇敢だ、
セリナIIタチカワ君。

……ま、単純に無謀とも言えるがね。



こんな大規模に向こう側からの
大気汚染が拡がったら、どうなるか……
ドクター！貴方は……っ、はあっ、ん、あっ!?

ずらめっ==ずらめっ==ずらめっ==ずらめっ==ずらめっ==

あっ、くっ……そんな、そこを、
じ、擦る、なあ、んあ!?は、あん……!!



ん、あっ!?んくっ、あ、あぁっ!?
シ、シールドの効力が、減衰・・・!?
そんな、どうし、て・・・!?

対異次元汚染に特化した

「D・P・B・スーツ」・・・

私とてかつては「組織」に属した身だ。
そのスーツのシールド機能を中和する
手立てくらいは、用意しているとも。

なんで、すって・・・!?あ、ひっ!?
や、あぁっ!?くう、あぁあぁっ!?



んうっ！あっあっ……く、う、んああっ!?

(触手の、又メ又メした感触がスーツ越しに、伝わって……い、ゅっ……そこ、無理やり、こじ開けない、でえっ!!)

ふふふ、シールド中和剤は上手く

「彼ら」の大气と馴染んでくれたようだ。

それにしてもその濡れ様、余程「彼ら」の触手がお気に召したかね、セリナ君？

ふ、ふざけ、ないでっ……!!

あっ、ソコ、はあっ!?!だ、だめっ……!!

んうううっ!!あっ!?!ふ、あああっ……!!

う、な、何、これ……!?

(大きくて、太い……まるで、ミミズのような……
それに、ドクドク脈打って……!?)

ほう、見事な桃色から察するに、
未だ純潔を保っているようだな。
ならば歓びたまえ、セリナ君。

「彼ら」によって、今日という日に
「女」となるその幸運をな、ふふふ……

な……ま、まさか……!?



ぬちゅ……っ

ふあっ!? あ、熱、いいっ……!?

(先っぽが触れただけなのに……すいっ、
熱くて、固い……っわ、私、何を……!?
く、汚染がさらに進んでる、の……!?
いえ、そ、それより……)

や、やめなさい……そんなの、挿入^{はい}らない……
そんな、太いの……や、やめ……!!



じゅぽんぽん!!

いっっっっあっっっっ!?

っあアああアっ!!!?



ぶちゅうっ……じゅぶぶっ……!!

いっ、ぐうっ……!? い、た……
いた、いい……痛、いい……!!

う、そ……わ、私の、初めて……

こんな、ミミズみたいな、触手に……

ふふふ、ギブアップには早いぞセリナ君。
まだ、ほんの入り口だ。

え……なに、を、言って……



べっぴんまっせ!! ぽっぴんまっせ!!



ごめんなさい!! あっ...

ぐあ、あああああああ!!!?

ひっ...ん、ぎっ...っ!!

そ、そん、な、一気、に...!!

お、お腹、壊れ、ちゃ...!!

じゅりゅぽっ!!くぼんっ!!ぶじゅるるりゅっ!!

いっ!?あっ!?んあっ!!があっ・・・はっ、ああっ!?
い、やっ!!そんな、うっっ、動か、ないで、えっ!!

い、痛い、痛いい、痛いよお・・・

私の、腔内なか、ぐ、グチャグチャに、
されちゃ、うううう・・・!!)

じゅぽっ!!くぼんっ!!ずぶちゅっ!!

そ、んな、で、出たり、入ったりい・・・

し、しない、でえっ!!んあっ!?あっ、あああっ!!



ふんふん、ふん、ふん……!!
じゅんじゅん……ぶゅぽんっ……!!

あ、あ、ああ……う、う、そ……
わ、わた、し……

(腔内^{なか}が、あ、熱い……ドロドロしたのが、
い、いっぱい……)

おめでとうセリナ君。その胎内^{はら}の灼熱は
「証」だよ。君が「彼ら」の眷属として、
見初められたことのねえ、ふふふ……。



あ、生憎ね・・・D.P.B. スーツのシールドは、
私の、体内うちがわに向かっても、展開しているわ・・・。

今の出力でも、こんな、粗悪な精子くらい、
すぐに浄化して、役立たず、よ・・・!!

・・・ふ、ふははは！

なるほど、これはいい!!

ならば、あらゆる手を尽くすでしょう！

我らが本懐を遂げるためにねえっ!!

(い、これ以上、こいつの好きにさせるわけには・・・)

なんとか、この状況を脱しないと・・・!!



な、何をやるつもり……
うっ？！へ、ああっ……!?

（うう、何よ、この形……き、気持ち悪い……っ!!それだ、
なんて、弾力……一流アスリートの腕みたい……!!）

なに、単純なことだよ。D.P.B.スーツは
「彼ら」の精液による汚染を浄化する。さしずめ
君達に嵌められた貞操帯というわけだ。しかし……

